

# がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

科名	適応がん種	レジメン名
	多発性骨髄腫	DKd (皮下)
投与予定	休薬を含めて1クール 28 日 効果ある限り 継続	

Rp	薬品名	申請投与量	計算量	実際の投与量	手技・用法	投与時間	投与日(day-)								
							1	2	8	9	15	16	22		
1	生食 (ルートキープ)	50ml			点滴静注	5分	↓	↓	↓	↓	↓	↓			
★ブライミングフラッシュ5%ブドウ糖液必要★															
2	5%ブドウ糖液 + カルフィルゾミブ	100ml			点滴静注	30分	↓	↓	↓	↓	↓	↓			
	1クール目のday1・2のみ	20	#REF!	mg/body											mg/body
	溶解用蒸留水	100ml規格で		実際の投与量 ml											
	1クール目のday 8以降	56	#REF!	mg/body											mg/body
3	ダラツムマブ ・ ボルヒアルロニダーゼ アルファ	ダラツムマブとして 1800 mg/body			皮下注		↓								
	ボルヒアルロニダーゼ アルファとして 30,000単位/body			実際の投与量 単位/body											
	1回 15ml /body			実際の投与量 ml/body											

ダラツムマブは  
3クール目以降はday1・15のみ投与  
7クール目以降はday1のみ投与

Rp	薬品名	薬価最小組み合わせ	備考
2	カルフィルゾミブ	1クール目のday1・2	10mg1vは5ml 40mg1vは20mlの注射用水で溶解し、必要量を5%ブドウ糖液に混合する。(配合変化を起こすので生食等では希釈しない) 体表面積が2.2㎡を超える患者では、体表面積2.2㎡として投与量を算出すること。
		内 10mg 0mg	
		訳 40mg 0mg	
		1クール目のday8以降	
3	ダラツムマブ・ ボルヒアルロニダーゼ アルファ		臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に、本剤15mlを約3~5分かけて投与する。 他の部位への投与はデータが得られていないため行わないこと。 同一部位への反復注射は行わないこと。 皮膚の発赤、挫傷、圧痛、硬結又は瘢痕がある部位には注射しないこと。 患者が痛みを感じた場合は、注射速度を減速又は注射を中断する。減速しても痛みが軽減しない場合は、残りを左右逆側の腹部に投与することができる。 本剤投与中は、同一部位に他剤を皮下投与しないこと。
		内 10mg 0mg	
		訳 40mg 0mg	

併用内服薬	用量(1日量)	用法	投与期間
デキサメタゾン(レナデックス) (★75歳超えは右記参照)	20mg	分1※	day1、2、8、9、 15、16
デキサメタゾン(レナデックス) (★75歳超えは右記参照)	40mg	分1朝食後 ※※	day22
アセトアミノフェン	1000mg	ダラツムマブ 投与1~3時間前	ダラツムマブ 投与日
ジフェンヒドラミン	30mg		
モンテルカスト	10mg		
プレドニゾン	25mg	分1朝食後	1クール目 day3

※ダラツムマブ・カルフィルゾミブ投与日のデキサメタゾンはダラツムマブ投与の1~3時間前及びカルフィルゾミブ投与の4時間~30分前に内服。  
※※ダラツムマブ投与日はダラツムマブ投与の1~3時間前  
デキサメタゾンの用量・投与期間は、患者の状態で変更する場合あり。  
★75歳を超える患者の場合、  
1クール目 day1、2、8、15、22に20mg  
day9、16に8mg  
2クール目 day1、8、15、22に20mg  
3~6クール目 day1、15、22に20mg  
day8は12mg day9は8mg  
7クール目以降 day1、22に20mg  
day8、15に12mg  
day9、16に8mg

備考	
----	--